

若菜地区防災計画

# 若菜防災福祉コミュニティ 地域おたすけガイド

平成27年2月作成

若菜ふれあいのまちづくり協議会防災部会(神戸市)

(若菜防災福祉コミュニティ)



### 防コミ運営本部設置基準

- ・震度5弱以上若しくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- ・特別警報が出された場合。
- ・上記のほか、大雨等で神戸市に土砂災害警戒情報が発表された場合。

### 活動方針

阪神・淡路の教訓で、近隣の方々に助けあうことはとても重要です。しかしながら、周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分達の出来る範囲で防災活動を行いましょう!!

### 鍵の管理

- ・若菜地域福祉センターと防災資器材庫の鍵は、若菜ふれあいのまちづくり協議会防災部長及び若菜ふれあいのまちづくり協議会委員長の2名が管理している。

防コミ運営本部 設置場所	市立若菜地域福祉センター		
ブロック本部設置場所	市立若菜地域福祉センター	中央消防団第2分団詰所	生田川公園
	市立中央小学校		
防災資機材庫の場所	市立若菜地域福祉センター	神若公園	生田川公園
避難所	市立中央小学校	市立春日野小学校	
耐震性防火水槽	神若公園		
災害時要援護者 名簿保管場所	なし		
防災行政無線保有者	若菜ふれあいのまち づくり協議会防災部長	若菜ふれあいのまち づくり協議会委員長	若菜地域福祉センター

平成27年2月2日 現在



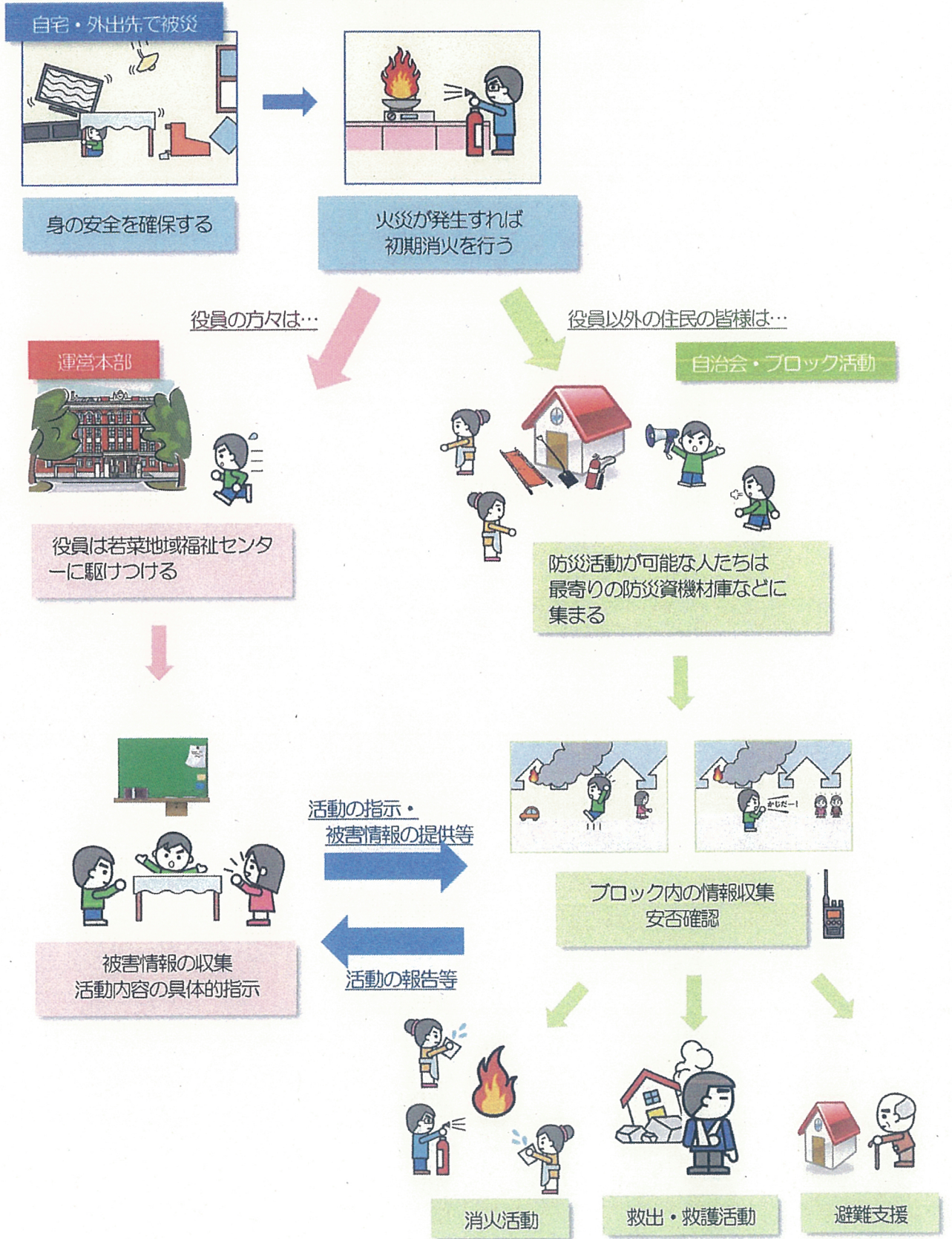
□は、班編成が完了したら✓をつける。

## 防コミ運営本部班編成

- 統括防災リーダー
  - ・統括防災リーダーは防コミ運営本部を設置し、集まってきたメンバーで必要な班編成をする。
  
- 情報班
  - ・地区内の被害状況を収集し、収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。
  - ・収集した情報は、伝令等により、ブロック長に伝達する。
  
- 消火班
  - ・消火器や耐震性防火水槽の小型動力ポンプ（神若公園に有り）等を活用し初期消火をする。
  
- 救出救護班
  - ・防災資機材庫から資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を使用し、負傷者を救出する。
  - ・応急手当を実施し、医療機関に搬送する。
  
- 避難誘導班
  - ・民生・児童委員等と協力し、高齢者や外国人などの安否確認をする。
  - ・避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援をする。
  
- 給水給食班
  - ・防災資機材の確保や非常食の確保をする。
  - \* 2次災害を防止するため、班毎の編成は2名以上で行い、災害対応は単独行動を避け協力して実施する。



# 大地震発生時のフローチャート





## ①地震

### 【災害発生直後】

□は、その行動が完了したら✓をつける。

#### 個人の行動

##### 1 地震発生直後の安全の確保

- 火を使用している場合は、可能な限り火を止める。
- 地震の揺れを感じたら、まず、丈夫なテーブルの下に隠れるなど、身の安全を確保する。姿勢を低くし、体、頭を守り、揺れが収まるまでじっとしている。
- 家族の安全を確認する。
- 火災が発生すれば消火器等で初期消火を行う。
- ラジオなどで情報の確認。

#### 防災福祉コミュニティとしての活動

##### 1 防コミ運営本部の立ち上げ

- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報班、給水給食班等の班編成を行う。(班毎に色違いのリボンで明示する。)
- 本部に地域の地図、防災マップ、などを配置する。  
また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。
- 情報班は地区内の被害情報を収集し、被害状況に応じて、各ブロックに活動内容の具体的指示(情報収集・伝達、安否確認、被災者の救出・救護等)を出す。
- 各ブロックの活動班の人員が不足している場合は、本部から人員を派遣する。

##### 2 ブロック毎の災害対応

- 防災活動が可能な市民は、最寄りの「防災資機材庫」や「耐震性防火水槽」に集まり、数名で班を編成し防災活動を行う。
- ブロック長(単位自治会長等)は資機材庫で、消火や救助など、対応すべき災害に応じた班を集まってきた市民で編成する。

##### 3 情報収集・伝達

- 防コミ運営本部はラジオ、テレビ、防災行政無線、緊急速報メール等で地震情報等の収集を行う。
- 防コミ運営本部が防災行政無線等により収集した地震情報等は、伝令等により、ブロック長に伝達する。



- ブロック長は、各地区内の被害状況や住民の安否等の状況調査を行い、伝令などにより防コミ運営本部に報告する。
  - \*外国人の方への情報伝達や情報収集の方法について検討する。
  - \*地震時は有線電話、携帯電話は使用できないと考えた方がよいです。

#### 4 安否確認（→安否確認体制の整備が今後の課題になるのでは）

- 自宅から避難する際、無事に避難した目印にタオルを玄関先に取り付ける。（今後地域で統一された色にする等の検討、周知が必要）
- 民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。
  - \*ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる区別も効果的です。

#### 5 消火活動

- ブロック単位で耐震性防火水槽の小型動力ポンプ(神若公園に有り)やあらゆる消火器具等を活用し初期消火を行う。
- 出火場所を確認する。
- 消火活動人員の割り振りをする。
  - \*火災の規模によっては消火器やバケツリレーでの消火も重要です。

#### 6 救出・救護活動

- 二次災害に注意しながら、ブロック単位で防災資機材を使用し、負傷者を救出する。（地域住民で対応不可能な場合は消防団に連絡する）
  - \*救出にはジャッキやバール、のこぎりなどが有効です。
- 救出活動人員の割り振りをする。
- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

#### 7 災害時要援護者の避難支援（→要援護者避難支援体制の整備が今後の課題になるのでは）

#### 8 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署、消防団に連絡する。
- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

## 9 避難所のたちあげ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所をたちあげる
- 避難者名簿の作成



## ②風水害

### 個人の行動

#### 1 風水害発生前の安全の確保

- 台風の被害が予想されることから、側溝の掃除をしたり、ベランダの植木鉢や自身の身の回りの物を片付ける。
- 隣近所をパトロールして飛散しやすい物がないか事前に確認し、避難経路の確保を行う。

### 防災福祉コミュニティとしての活動

#### 【災害発生前】

#### 1 防コミ運営本部の立ち上げ

- この地域は土砂災害警戒区域外のため具体的な被害の発生する恐れがある場合に運営本部を立ち上げる。
- 防コミ運営本部に役員が揃わないことが予想されるが、集まったメンバーで本部を立ち上げる。
- 本部に駆けつけた役員の中から統括防災リーダーを決定する。
- 統括防災リーダーは集まってきたメンバーで、情報班、給水給食班等の班編成を行う。(班毎に色違いのリボンで明示する)
- 本部に地域の地図、防災マップ、などを配置する。また、メンバーで情報を共有するためホワイトボードや模造紙を準備する。

#### 2 情報収集・伝達

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ、緊急速報メール等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 収集した情報は、有線電話、携帯電話等により、ブロック（自治会）長に伝達する。
- 洪水や土砂災害の危険性が予測される場合は、災害時要援護者に早期の自主避難を呼びかける。また、各ブロックの活動班による災害時要援護者避難誘導が実施できるよう体制を整える（人員確保等）。

#### 3 組織内の連絡体制の確保

- 情報伝達の手段や順番（誰が誰にどのように伝えるのか）をあらかじめ整理しておく。

#### 4 災害時要援護者の避難誘導

- 洪水や土砂災害の危険性が予測される場合で、災害時要援護者が自ら避難できない場合は、各ブロックの活動班により避難誘導を実施する。

#### 5 資機材等の確保

- 災害発生時に備えて、防災資機材の確保や非常食等の確保をする。

#### 【災害発生中】

##### 1 防コミ運営本部による情報収集

- 防コミ運営本部は屋外での活動は避け、自らの安全を確保するとともに、防災行政無線、ラジオ、テレビ、緊急速報メール等からの情報収集に努める。

##### 2 各ブロックの活動班

- 各ブロックの活動班は屋外での活動を避け、自らの安全を確保するとともに、防コミ運営本部からの指示に従う。

#### 【災害発生後】

##### 1 防コミ運営本部による指揮

- (【災害発生前】と同様の方法で防コミ運営本部を立ち上げる。)
- 情報班は地区内の被害情報を収集し、被害状況に応じて、各ブロックに活動内容の具体的指示(情報収集・伝達、安否確認、被災者の救出・救護等)を出す。
- ブロックの班を編成するための人員が不足している場合は、本部から人員を派遣する。

##### 2 ブロック毎の災害対応

- 防災活動が可能な市民は、最寄りの「防災資機材庫」や「耐震防火水槽」に集まり、数名で班を編成し防災活動を行う。
- ブロック長(単位自治会長等)は「救出救護班」など、対応すべき災害に応じた班を集まってきた市民で編成する。

##### 3 情報収集・伝達

- 防災行政無線、ラジオ、テレビ、緊急速報メール等から気象情報、土砂災害警戒情報等を収集する。
- 防災行政無線等により収集した気象情報等は、有線電話、携帯電話等により、



ブロック長に伝達する。

- 有線電話、携帯電話等により、ブロック長から各地区内の被害状況や住民の安否等の状況調査を行う。

\*外国人の方への情報伝達や情報収集の方法について検討する。

#### 4 安否確認 (→安否確認体制の整備が今後の課題になるのでは)

- 自宅から避難する際、無事に避難した目印にタオルを玄関先に取り付ける。(今後地域で統一された色にする等の検討、周知が必要)

- 民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。

\*ドア等に安否確認済みの目印をつける、安否不明者宅に連絡票を張るなどによる区別も効果的です。

#### 5 救出・救護

- 二次災害に注意しながら、ブロック単位で防災資機材を使用し、被災者を救出する。(地域住民で対応不可能な場合は消防団に連絡する)

- 被災者が負傷している場合は、止血等の応急手当を実施し、医療機関に搬送する。

#### 6 区や消防署への連絡

- 被害情報、活動情報等を区役所や消防署、消防団に連絡する。

- 避難所運営で必要な事項を区役所等へ伝える。

#### 7 避難所のたちあげ

- 学校関係者や区役所職員と協力して避難所をたちあげる。

- 避難者名簿を作成する。

#### 災害時要援護者とは

災害が発生した場合に、安全な場所に避難したり、避難場所での生活において困難が生じて、まわりの人の助けを必要とする方

・障がいのある方

・介護が必要な方

・高齢者 (ひとり暮らしの方、高齢者世帯など)

・外国人など日本語が理解できない方や、難病患者、乳幼児、妊産婦のほか、災害時に負傷した方など自力で避難することが難しい方

### ③共通事項

【数時間後～3日（72時間）ぐらいまで】

#### 1 役割分担の見直し

- 防災福祉コミュニティの役員の集結状況や災害の状況に応じて役割を、見直す。

#### 2 避難所の運営

- 学校関係者、区役所職員や災害ボランティアと協力して避難所の運営にあたる。
- 女性や子育て家庭への配慮
- 災害時要援護者への配慮（要援護者ご本人やご家族の意向を踏まえ、避難所内に一般の方と分けした要援護者のための福祉避難室を設けるなどの対応：保健室の利用など）

※特に、知的や精神、発達障がい者のうち、集団生活に対応することが困難な方、透析患者やオストメイト（人工肛門など）などの内部障がい者について、特別な配慮が必要であることを、他の避難者に理解していただくことが大切。

- 福祉避難所（次頁参照）を必要とする方について、避難所を巡回する市の保健師へつなぐ。

#### 3 生活情報の収集

- 生活情報の収集及び住民への周知

#### 4 防火・防犯パトロール

- パトロール班を結成し、交代で地域内のパトロールを行う。



### 「福祉避難所」について

神戸市では、避難所での生活において、何らかの特別な配慮を要する方のための二次的避難所として、地域福祉センターや特別養護老人ホームなど、357箇所を「福祉避難所」に指定しています（平成29年3月末時点）。

福祉避難所の対象者は、市の保健師が避難所で行う健康調査等をもとに、ご本人やご家族の意向や状況を踏まえ、市が決定します。

要援護者から福祉避難所への直接避難の相談があった場合は、区災害対策本部へ連絡いただくよう、対応をお願いします。

※福祉避難所の開設は、対象者の人数や施設の状況、対応可能な人員や物資の確保の状況等を踏まえて、市が判断します。災害時に常に開設される訳ではありませんので、要援護者の方を含め、まずは一般避難所へ避難していただくことになります。



# 情報収集・伝達

- 1 ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
- 2 地域内の災害情報を把握する。

## 情報収集・伝達手順

### 1 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

#### (1) ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

#### (2) 行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に出向くなどして、公開されている情報を収集する。

#### (3) 各ブロックからの情報収集

### 2 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。



# 避難情報

- 1 安否確認情報の収集
- 2 安否不明者の確認  
→民生・児童委員等と協力し安否確認を行う

## 訪問先での確認手順

- 1 外観の確認  
建物に甚大な被害がないかを確認してください。
- 2 声かけ・呼びかけ確認  
門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。
- 3 ドアをノックする  
応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックしてみてください。
- 4 庭、勝手口等の確認  
状況が把握できないときは、庭、勝手口などの確認をしてください。

(避難する側) 避難済みタオルの取り付け  
→住民が住宅から避難する際、タオルを玄関先に取り付け、無事に避難したことを伝える。



# 救出・救護活動

- 1 ブロック、自治会単位で防災資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
- 2 救護（応急手当）を実施する。

## 救出・救護手順

### 1 被害の実態把握

- (1) 倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- (2) 建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- (3) 二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

### 2 二次災害の防止

- (1) 木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- (2) 柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- (3) 火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

### 3 要救助者の救出

- (1) 要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。
- (2) 要救助者を無理に引き出そうとしない。

### 4 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。



# 消 火 活 動

- 1 ブロック、自治会単位で耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を活用し初期消火を行う。
- 2 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

## 消火活動手順

### 1 消火用水の選定

- (1) 火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側の消火用水を使うなど風向きに注意する。
- (2) 河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かび上がらないようにする。
- (3) ポンプから水面までの高低差はC級で7m以内を目安とする。

### 2 ホースの延長要領

- (1) 道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- (2) ホースの結合は外れしないように確実に行う。

### 3 送水の時期

- (1) ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があつてから送水する。
- (2) 放口コックを開けるときは筒先の反動力を考え徐々に行う。



# 災害時要援護者の避難支援

自宅の損傷の状況等により、避難所等に避難する必要がある災害時の要援護者の避難支援を行う。

## 避難支援のポイント

- 1 一人暮らし高齢者**  
迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。
- 2 寝たきりの要介護高齢者**  
避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。
- 3 認知症の人**  
安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。
- 4 視覚障がい者**  
音声による情報伝達や状況説明が必要。避難誘導等の援助が必要。
- 5 聴覚障がい者**  
補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。
- 6 言語障がい者**  
手話、筆談等によって状況を把握することが必要。
- 7 在宅人工呼吸器使用者**  
避難所での電源確保が必要。